

「舞鶴湾の秘島」

蛇島

じゃじま



▲蛇島の位置図

日本遺産「鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴」日本近代化の躍動を体感できるまち」の構成文化財に、舞鶴湾に浮かぶ蛇島の旧海軍施設「蛇島ガソリン庫」が追加されました。

《文化振興課・観光振興課》



▲重機の基礎と思われる構造物



▲要石などの意匠をこらしたガソリン庫入口



▲筒状のガソリタンクがあったと考えられる土台



▲石積み護岸

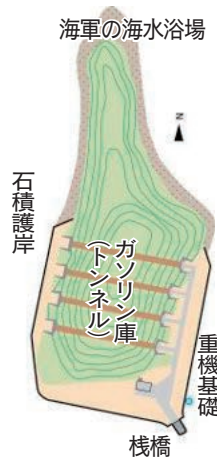
軍港の歴史を今に伝える「蛇島ガソリン庫」

蛇島は、佐波賀集落の沖合に浮かぶ無人島で、大正11(1922)年に、旧海軍が燃料保管施設を設置しました。島内にはガソリン庫のトンネル4本(長さ約70m)が掘られ、トンネル内に燃料タンクが置かれていたと考えられています。

その他、重機の基礎や石積護岸、棧橋など、当時の遺構が良い状態で残っており、軍港を支えたインフラや技術史を具体的に示す遺産として、日本遺産の構成文化財に加えられました。時が止まったかのような異空間が、軍港の歴史を今に伝えています。

海軍のプライベートビーチ？

蛇島には戦前、海軍関係者やその家族が利用できる海水浴場が開設されていたそう。砂浜の海水浴場が整備され、水



戦国時代の水車の城「蛇島城」

泳レーンや飛び込み台もあったといわれています。海軍関係者やその家族にとつて、海のレジャーを楽しめる場所でもありました。

蛇島には、戦国時代「蛇島城」が築かれました。海上の城は府内では珍しく、海上交通の要衝として睨みをきかせるため、当時から重要な島であったと考えられます。永禄12(1569)年、戦国時代の著名な連歌師(※)で、織田信長、明智光秀、細川幽斎とも親交があった里村紹巴(さうは)が旅の途中で蛇島城に滞在した記録も残っています。現在でも、山を削った平坦地(曲輪)や堀の跡などの遺構が良い状態で残っています。

今から450年あまり昔、一流の文化人である紹巴が滞在した蛇島はどんな姿だったのでしょうか。



▲現地調査だけでなく当時の様子だけを元の人からも聞き取り



▲手前に棧橋が見える

※連歌…和歌の上の句と下の句を互いに読みあつて繋げていくもの。即興で歌を繋げていくには高い知識・教養とセンスが必要

歴史ストーリーを体感して

日本遺産セミナー

【日時】10月18日(日)14時～15時30分

【場所】赤れんが4号棟

【内容】郷土資料館の岡岡博之館長による講演「日本遺産 本市における構成文化財の見どころ」

【定員】先着30人

【申し込み方法】前日までに電話で赤れんが博物館(☎66・1095)へ。

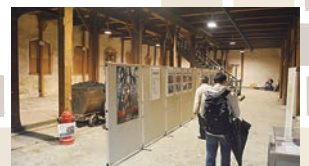
地元を再発見！

日本遺産WEEK

【日時】10月31日(出)～11月8日(日)

【場所・内容】普段は非公開の日本遺産施設の公開ツアーや赤れんが5号棟でのパネル展示

【問い合わせ先】観光振興課(☎66・1024)へ。



▲過去の公開ツアーの様子

まいづる 広報まいづる 10月号

発行・舞鶴市 (〒625-8555 京都府舞鶴市字北吸1044、☎62・2300)
 ※舞鶴市内の電話番号では市外局番(0773)を省略しています。
 編集・広報広聴課(☎66・1041、FAX 62・7951) 基本デザイン、一部編集、印刷・有限会社多田印刷所



舞鶴市公式LINEアカウント
 防災情報、市政・イベント情報など
 ▲登録は、こちらのコードから

